

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分  
 【発行日】平成 18 年 9 月 14 日 (2006.9.14)

【公開番号】特開 2005-348078 (P2005-348078A)  
 【公開日】平成 17 年 12 月 15 日 (2005.12.15)  
 【年通号数】公開・登録公報 2005-049  
 【出願番号】特願 2004-165034 (P2004-165034)  
 【国際特許分類】

**H 0 4 N      5/92      (2006.01)**

**G 1 1 B      20/10      (2006.01)**

**G 1 1 B      27/00      (2006.01)**

【F I】

H 0 4 N      5/92      H

G 1 1 B      20/10      3 1 1

G 1 1 B      27/00      B

【手続補正書】  
 【提出日】平成 18 年 8 月 2 日 (2006.8.2)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】全文  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】  
 【請求項 1】

リアルタイムに送信されるテレビ放送番組コンテンツの映像信号と音声信号から M P 4 ファイルフォーマットのフラグメント形式のフラグメントデータを生成するフラグメントデータ生成手段と、

このフラグメントデータ生成手段にて M P 4 ファイルフォーマットのフラグメント形式のフラグメントデータに生成されるテレビ放送番組コンテンツの総時間をカウントする総時間カウンタ手段と、

前記フラグメントデータ生成手段にて生成されたフラグメント形式のフラグメントデータをフラグメント毎に記録メディアに記憶させると共に、この記録メディアにフラグメント毎のフラグメントデータが記録される都度、前記フラグメント形式の第 1 フラグメントのヘッダの所定フィールドに前記総時間カウンタ手段によりカウントされた総時間を暫定値として上書き更新させる記録メディアインターフェイス手段と、  
 を具備することを特徴とした録画装置。

【請求項 2】

前記フラグメントデータ生成手段と前記記録メディアインターフェイス手段との間に、前記フラグメントデータ生成手段により生成されたフラグメント形式のフラグメントデータの少なくとも 1 フラグメント分のフラグメントデータを記憶させるフラグメントデータバッファ手段を設け、このフラグメントデータバッファ手段に 1 フラグメント分のフラグメントデータが記憶されると、その記憶されたフラグメント分のフラグメントデータを前記記録メディアに記録させることを特徴とした請求項 1 記載の録画装置。

【請求項 3】

前記フラグメントバッファ手段に記憶された 1 フラグメント分のフラグメントデータが前記記録メディアに記録される際に、そのフラグメントの前のフラグメントまでの前記総時間カウンタ手段によりカウントされた総時間を第 1 フラグメントのヘッダの所定フィールドに上書き更新することを特徴とした請求項 1 記載の録画装置。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１０

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１０】

本発明の録画装置は、リアルタイムに送信されるテレビ放送番組コンテンツの映像信号と音声信号からＭＰ４ファイルフォーマットのフラグメント形式のフラグメントデータを生成するフラグメントデータ生成部３１と、

このフラグメントデータ生成部３１にてＭＰ４ファイルフォーマットのフラグメント形式のフラグメントデータに生成されるテレビ放送番組コンテンツの総時間をカウントする総時間カウンタ部３３と、

前記フラグメントデータ生成部３１にて生成されたフラグメント形式のフラグメントデータをフラグメント毎に記録メディア２０に記憶させると共に、この記録メディア２０にフラグメント毎のフラグメントデータが記録される都度、前記フラグメント形式の第１フラグメントのヘッダの所定フィールドに前記総時間カウンタ部３３によりカウントされた総時間を暫定値として上書き更新させる記録メディアインターフェイス１６と、を具備することを特徴としている。